

令和5年度

シラバス

富山県立小矢部園芸高等学校

令和5年度 シラバス

目 次

| 教科 | 科 目 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | |
|---------------------------|--------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|--|
| 国語 | 現代の国語 | 1 | | | |
| | 言語文化 | | 15 | | |
| 公民 | 公 共 | 2 | 16 | | |
| 数学 | 数 学 I | 3 | | | |
| 理科 | 科学と人間生活 | 4 | | | |
| | 生物基礎 | | 17 | | |
| 保健体育 | 体 育 | 5 | 18 | | |
| | 保 健 | 6 | 19 | | |
| 芸術 | 音 楽 I | 7 | | | |
| | 美 術 I | 8 | | | |
| | 書 道 I | 9 | | | |
| 外国語 | 英語コミュニケーションI | 10 | 20 | | |
| 家庭 | 家 庭 総 合 | 11 | 21 | | |
| 農 業 | 農 業 と 環 境 | 12 | | | |
| | 課 題 研 究 | | 22 | | |
| | 総 合 実 習 | 13 (1) 野菜 | | 23 (1) 野菜 | |
| | | 13 (2) 草花 | | 23 (2) 草花 | |
| | | 13 (3) 造園 | | 23 (3) 造園 | |
| 13 (4) 作物 | | | 23 (4) 作物 | | |
| 農 業 と 情 報 | 14 | | | | |

令和5年度 シラバス 目 次

| 教科 | 科 目 | 1年次 | 2年次 | 3年次 |
|-------|--------------|-----|--|--|
| 国語 | 国 語 総 合 | | | |
| 地 理 史 | 世 界 史 A | | | 2 4 |
| | 日 本 史 A | | | |
| | 地 理 A | | | |
| 公 民 | 現 代 社 会 | | | 2 5 |
| 数 学 | 数 学 I | | | |
| 理 科 | 科学と人間生活 | | | |
| | 化 学 基 礎 | | | 2 6 |
| | 生 物 基 礎 | | | |
| 保 健 育 | 体 育 | | | 2 7 |
| | 保 健 | | | |
| 芸 術 | 音 楽 I | | | |
| | 美 術 I | | | |
| | 書 道 I | | | |
| 外国語 | コミュニケーション英語I | | | |
| 家 庭 | 家 庭 総 合 | | | |
| 農 業 | 農 業 と 環 境 | | | |
| | 課 題 研 究 | | | 2 8 |
| | 総 合 実 習 | | 2 3 (1) 野菜 2 3 (2) 草花 2 3 (3) 造園 2 3 (4) 作物 | 2 9 (1) 野菜 2 9 (2) 草花 2 9 (3) 造園 |
| | 農 業 情 報 処 理 | | 3 0 | |

| | | | | |
|------|-----|-------|----------------|---------|
| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
| 1 | 国語 | 現代の国語 | 2 | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 1 | なし | なし | 大修館書店 新編 現代の国語 | |

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|-----------------------------|--|--|
| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| 単元・作品名 | 学習内容 | 到達 度 目 標 |
|--------|--|--|
| 前 期 | <ul style="list-style-type: none"> 「変わる」ことについて筆者の考えを読み取る。 早口言葉 自己紹介 傾聴 書写 音読 形、配置、手順などを説明する。 対比の関係に注目し、作者の主張を読み取る。 本を選び、表現を工夫してPOPを作る。 内容のまとめ、聞きやすさを意識して話す。 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容や構成、展開などを的確に捉え、書き手の意図を解釈して自分の考えを深めることができる。 発音や聞き方に注意して話したり聞いたりできる。 読みやすくわかりやすい文字を書くことができる。 発音や速さ、間、強弱を工夫して音読できる。 伝わる説明について考え、わかりやすい説明ができる。 具体例の働きを理解し、書き手の主張を読み取り、自分の考えを深めることができる。 POPの表現の工夫を知り、伝えたいことを明確にして、効果的な紹介文を書くことができる。 テーマを決めて、相手に伝えたいことをわかりやすく話すことができる。 |
| 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> 文字・図形・絵などの効果について考える。 メッセージを伝える。 メモを取る。 インタビューする。 内容をまとめる。 話し言葉・書き言葉の学習 依頼内容を形式に沿って書く。 具体例の役割に注意しながら、筆者の主張を読み取る。 | <ul style="list-style-type: none"> 視点や立場によってももの見方は異なる事を理解し、情報を吟味することについて考えを深めることができる。 自分にとって必要な情報を意識して、メモを取りながら聞くことができる。 聞き取った情報を整理したり編集したりし、わかりやすく効果的な文章を書く。 場面に応じた言葉遣いを理解し、適切に使い分けることができる。 敬語の正しい使い方を理解できる。 内容を明確に伝え、相手に了承してもらえるような依頼状を書くことができる。 筆者の主張を踏まえて、自分の考えを深める。 |

取得可能な検定や資格

漢字検定 硬筆書写検定

| | | | | |
|------|-----|------|---|---------|
| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
| 3 | 数学 | 数学 I | 3 | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 1 | なし | なし | ・高校数学 I (実教出版) ・ステップノート数学 I 新課程版(実教出版) | |

目 標

- ・数と式、2次関数、三角比について理解し、基礎的な知識を身に付ける。
- ・数と式、2次関数、三角比問題を表現・処理する技能を身に付ける。
- ・数と式、2次関数、三角比に関して身に付けた知識や技能を的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方の良さを知ることができる。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|--|---|--|
| 数と式、二次関数及び図形と計量についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 |

| 単元・作品名 | 学習内容 | 到達度目標 |
|---|---|--|
| ウォームアップ 1章 数と式 1節 整式 2節 実数 3節 方程式と不等式 2章 2次関数 1節 関数とグラフ | ①文字式のきまり ②整式 ③整式の加法・減法 ④整式の乗法 ⑤乗法公式による展開 ⑥因数分解 ①平方根とその計算 ②実数 ①1次方程式 ②不等式 ③不等式の性質 ④1次不等式 ⑤連立不等式 ⑥不等式の応用 ①1次関数とそのグラフ ②2次関数とそのグラフ | ・中学まで習ってきた計算規則や方程式の解き方を確認し、正しく計算できるようにする。 ・文字式の計算規則を確認し、整式、次数、係数、定数項などの意味を知る。整式の加減乗や指数の計算方法を知り、公式を利用して2次式や3次式の展開や因数分解ができる。 ・根号で表される数どうしの加減乗の計算や分母の有理化ができる。 ・数の体系について理解を深める。 ・方程式、不等式、解などの意味を知り、解いたり、数直線に表したりすることができる。 ・連立不等式や不等式の応用問題を解くことができる。 ・1次関数や2次関数とそれらのグラフの形が分かり、グラフの平行移動ができる。また、平方完成を利用して、グラフをかくことができる。 |
| 2節 2次関数の値の変化 3章 三角比 1節 三角比 2節 三角比の応用 | ①2次関数の最大値・最小値 ②2次関数のグラフと2次方程式 ③2次関数のグラフと2次不等式 ①三角形 ②三角比 ③三角比の利用 ④三角比の相互関係 ①三角比の拡張 ②三角形の面積 ③正弦定理 ④余弦定理 ⑤正弦定理と余弦定理の利用 | ・グラフを利用して2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・2次関数のグラフと2次方程式の解との関係や2次不等式の解との関係について理解できる。 ・三角形の相似や三平方の定理を利用し、辺の長さを求めることができる。 ・正接、正弦、余弦を知り、三角比を求める、三角定規の三角比が分かる、相互関係を知るなどができる。 ・鋭角と比較しながら、鈍角の三角比を求めることができる。 ・三角形の面積の公式、正弦定理、余弦定理を知り、面積、辺の長さ、角度などを求める問題を解くことができる。 |

取得可能な検定や資格

- ・実用数学技能検定
- ※準2級を取得すると1単位の増加単位として認定される(数学Iを修得した場合に限る)

| N | O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|--|--------------|---|---------|---|---------|
| 4 | | 理科 | 科学と人間生活 | 2 | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 1 | なし | | なし | 実教出版 科学と人間生活 実教出版 アクセスノート科学と人間生活 | |
| 目 標 | | | | | |
| 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 | |
| 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 | | 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 | | 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 | |
| 単元・作品名 | | 学習内容 | | 到達 度 目 標 | |
| 前 期 | 科学と技術の発展 | <ul style="list-style-type: none"> 科学と技術の始まり 海 土 | | 科学技術の発展について、科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて、および 科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現する。 | |
| | 物質の科学 | <ul style="list-style-type: none"> 材料とその際利用 食品と医療 | | 身近な材料に関して、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解する。 衣料と食品に関して、身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解する。 | |
| | 生命の科学 | <ul style="list-style-type: none"> ヒトの生命現象 微生物とその利用 | | ヒトの生命現象に関して、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解する。 微生物にして、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解する。 | |
| 後 期 | 光や熱の化学 | <ul style="list-style-type: none"> 熱の性質とその利用 光の性質とその利用 | | 熱に関して、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解する。 光に関して、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解する。 | |
| | 宇宙や地球の科学 | <ul style="list-style-type: none"> 太陽と地球 身近な自然景観と自然災害 | | 天体に関して、太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解する。 自然景観と自然災害に関して、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解する。 | |
| | これからの科学と人間生活 | <ul style="list-style-type: none"> これからの科学・技術と人間 | | 課題を設定し探究することで、これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深める。また、これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現する。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| なし | | | | | |

| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|--|---|--|--|--|
| 5 | 保健体育 | 体育 | 3 / 7 1～3年次まで継続履修 | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 1 | なし | なし | 現代高等保健体育（大修館） | |
| 目 標 | | | | |
| <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 |
| <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> | | <p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> | | <p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p> |
| 単元・作品名 | | 学習内容 | 到達 度 目 標 | |
| 前 期 | 集団行動 体づくり運動 スポーツテスト 陸上競技 ・短距離走、リレー 球技 ・バドミントン | 姿勢、方向転換 体ほぐしの運動 各種測定 50m、100m 走 バトンパス、ハードル走 基本技術（ドライブ、ハイクリア、サーブ、ヘアピン、スマッシュ） | <ul style="list-style-type: none"> 自己の体への関心と体づくりへの取り組みができる。 実践を通して陸上競技の楽しさにふれている。 自己の技術的・体力的課題を知り、その解決を図りながら記録の向上を目指している。 バドミントンの特徴を理解し、正しくシャトルを打つことができる。簡易ゲームでラリーを楽しむことができる。 運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。 運動の特性、効果的な練習法を理解し、知識が身に付いている。 オリンピックとオリンピックの価値について説明できる。 | |
| | 体育理論 ・サッカー | ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ ・オリンピックとパラリンピックの意義 基本技術（パス、ドリブル） 戦術練習、簡易ゲーム | <ul style="list-style-type: none"> サッカーの特性と戦術を理解し、ゲームの攻防を楽しむことができる。チーム全員で協力し、楽しくパスゲームができる。 | |
| 後 期 | 球技 ・ソフトボール ダンス 球技 ・テニス ・卓球 | 基本技術（打つ、捕える、投げる、走る） エアロビクスダンス 現代的リズムのダンス フレッシュテニス（フォア、バック、ロブ） 基本技術、サーブ、簡易ゲーム（フォア、バック、ドライブ） | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な技術を身に付けている。 個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限に活用してゲームができる。 音楽に合わせて楽しく体を動かすことができる。 基本的な技術を身につけ、相手側のコートに空いた場所をめぐる攻防ができる。 卓球の特徴を理解し、正しくボールを打つことができる。簡易ゲームでラリーを楽しむことができる。 | |
| | 体育理論 | ・スポーツが経済に及ぼす効果 ・スポーツの高潔さとドーピング ・スポーツと環境 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているかを説明できる。 スポーツにかかわる業種について例をあげて説明できる。 スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| なし | | | | |

| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|------|------|-----|----------------------|---------|
| 6 | 保健体育 | 保健 | 1 / 2 1～2年次まで継続履修 | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 1 | なし | なし | 現代高等保健体育（大修館） | |

目 標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|---|--|--|
| 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 |

| 単元・作品名 | 学習内容 | 到達 度 目 標 | |
|--------|---|--|---|
| 前 期 | <ul style="list-style-type: none"> ○現代社会と健康 ・健康の考え方 ・健康の保持増進と病気の予防 ・精神の健康 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康水準向上の背景を理解し、これからの健康問題について興味関心を持っている。 ・がんの種類や原因について説明できる。 ・生活習慣病の因果関係（食事・運動・喫煙・飲酒との関連）を知り、その予防方法を実践することができる。 ・薬物乱用は、心身の健康などに深刻な影響をあたえることを理解している。 ・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 |
| 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> ○安全な社会生活 ・交通安全 ・応急手当 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり ・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症をとりまく状況の変化を知り、その予防方法を実践することができる。 ・人間の欲求と適応機制、精神と身体との関連について理解している。 ・欲求やストレスに対する適切な対処方法を知り、自己実現を図ることが重要であることを理解している。 ・運転者には、資質と責任が求められることを理解している。 ・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 ・応急手当の意義について説明できる。 ・心肺蘇生法などの正しい応急手当ができる。 |

取得可能な検定や資格

なし

| | | | | |
|------|----------------------|------|---------------|---------|
| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
| 7 | 芸術 | 音楽 I | 2 | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使用教科書・教材 | |
| 1 | 音楽 I 美術 I 書道 I | なし | ON! 1 (音楽之友社) | |

目 標

音楽の幅広い活動を通して、音楽の見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|--|--|--|
| 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。 | 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 | 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。 |

| 単元・作品名 | 学習内容 | 到達度目標 |
|---|---|--|
| 前 期 歌唱 ～身近な音楽～ ～原語唱に挑戦～ 器楽 楽典 | <ul style="list-style-type: none"> 校歌 翼をください 花は咲く 少年時代 この道 A Whole New World Caro mio ben Heidenröselein ギター 音符・休符の長さ 音楽用語 | <ul style="list-style-type: none"> 声を合わせて歌うことの楽しさを味わうことができる。 歌詞の内容を理解し、表現を工夫して歌うことができる。 曲種に応じた歌い方を工夫することができる。 英語、イタリア語、ドイツ語に触れ、原語での歌唱の良さを味わうことができる。 ギターの基本的な奏法を理解し、奏法を意識して演奏することができる。 音符・休符の長さや基本的な音楽用語や意味を理解することができる。 |
| 後 期 西洋の音楽 日本の伝統音楽 ミュージカルの世界 器楽アンサンブル | <ul style="list-style-type: none"> ベートーヴェン 交響曲第9番「合唱付き」より「An die Freude」 こきりこ 谷茶前 「レ・ミゼラブル」 ハンドベル | <ul style="list-style-type: none"> 西洋音楽に親しむと共に作曲家や作品の時代背景について 関心を持つことができる。 歌詞の意味や曲想について理解し、表現を工夫して歌うことができる。 各地域の民謡への理解を深め、それにふさわしい歌い方や 間の取り方、楽器の演奏を工夫することができる。 ミュージカルの特徴を理解し、さまざまな分野の芸術に理解を深める。 物語の情景や歌詞の内容にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。 様々な楽器の特性を理解し、表現を工夫することができる。 各パートの響きを感じ取りながら、合わせて演奏することができる。 |

取得可能な検定や資格

| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|--|--|---|---|--|
| 8 | 芸術 | 美術 I | 2 | 選択必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 1 | 音楽 I 美術 I 書道 I | なし | 光村図書 ・ 美術 1 | |
| 目 標 | | | | |
| 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 |
| 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 | | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 | | 主体的に美術に幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 |
| 単元・作品名 | | 学習内容 | 到達 度 目 標 | |
| 前 期 | (絵画) 未来予想図 「よく観察して描こう」 | 名作を基にして、時間が経過した内容を想像して描く。 ・知識や技能について造形的な視点で実践を通して高める。 | <ul style="list-style-type: none"> よく見て描くことの大切さを実感し、着色について、混色や重ね塗りなどの工夫ができる。 常に画面全体を捉えながら、細部を描くことができる。 主体的な発想を基にして、主題を生成し独創的な表現内容を構想することができる。 | |
| | (彫刻・工芸) 仮面の制作 | 生活の場で生かせる美術品について思考し、表現する。 ・塑造的な表現 | <ul style="list-style-type: none"> 美術の役割等について理解を深め、主体的に創造的な造形表現の構想を練ることができる。 材料や技法の特性を理解して、表現方法を工夫することができる。 | |
| 後 期 | (デザイン) 切り絵の制作 | 生活の場で生かせる美術品について思考し、表現する。 ・単純化した図案 | <ul style="list-style-type: none"> 美術の役割等について理解を深め、主体的に創造的な造形表現の構想を練ることができる。 材料や技法の特性を理解して、表現方法を工夫することができる。 | |
| | (映像メディア表現) ストップモーションアニメーションの制作 (鑑賞) 日月山水図屏風 | アニメーションの基礎 ・動画の原理 多様性や個性を認め合う。 | <ul style="list-style-type: none"> アニメーションの特質を生かし、ストーリー、構図、動き等を創意工夫して効果的に表現できる。 造形を豊かに捉える多様な視点で見たり感じたりできる力を深める。 他者の見方や感じ方などから、多様性を認め、自分の中に新しい意味や価値を作り出すことができる。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| なし | | | | |

| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|------|----------------------|------|----------|---------|
| 9 | 芸術 | 書道 I | 2 | 選択必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 1 | 音楽 I 美術 I 書道 I | なし | 光村図書 書 I | |

目 標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|---|--|--|
| 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 | 書の上さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 | 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 |

| 単元・作品名 | 学習内容 | 到達度目標 |
|--|---|--|
| 書道で学習すること ①漢字の書の学習 楷書の学習 ・九成宮醜泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・牛橛造像記 行書の学習 ・蘭亭序 ・風信帖 ②篆刻と落款 | <ul style="list-style-type: none"> 書道の三分野を確認し、書写と書道の違いを確認する。 書体の変遷、書の学習法、拓本に関する知識の理解を図る。 様々な古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直観的に捉え味わう。 それぞれの古典の特徴と用筆・運筆を理解し、臨書する。 書作品に押すための雅印を制作する。 | <ul style="list-style-type: none"> 書道の三分野と臨書・鑑賞・創作の学習方法が理解できた。 書道への関心・意欲を高め、理解を深めることができた。 漢字には五つの書体があることを学習し、その成立過程を理解することができた。 臨書の意味や方法、拓本に関する基礎的な知識を身につけることができた。 様々な古典を鑑賞し、それぞれの時代背景や人物、書風の特徴を捉え、用筆・運筆との関わりについて理解することができた。 古典の臨書を通して、基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現ができた。 臨書をとおして意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけることができた。 落款の歴史や意味、種類について理解することができた。 篆刻の用具・用材、手順について理解することができた。 |
| ③仮名の書の学習 ・仮名の成立 ・仮名の用具・用材 ・仮名の基本的な筆使い ・平仮名の単体 ・連綿 ・高野切第三種 ・散らし書き ④漢字仮名交じりの書の学習 ・古典を生かした表現 ・漢字と仮名の調和 ・紙面構成、用具・用材の工夫 ⑤硬筆 | <ul style="list-style-type: none"> 我が国独自の仮名の書の成立過程を学び、字源について理解する。 仮名の基本的な筆使い、平仮名の単体、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を練習する。 平安時代の代表的な古筆を臨書する。 自分の好きな言葉や語句で、学習した古典の表情を生かし紙面構成を工夫して創作する。 硬筆の練習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 仮名の成立と変遷を理解し、日本独自の仮名の書の美しさを味わうことができた。 仮名の用具・用材の特徴を理解し、基本的な筆使いを身につけることができた。 古筆の美について理解し、用筆・運筆・字形の取り方などを意識して臨書することができた。 散らし書きの構成について理解して練習することができた。 漢字仮名交じりの書の変遷について理解することができた。 古典の表情を生かして、漢字と仮名を調和させることができた。 文字の大きさや配列など、紙面の構成を工夫することで表現に変化をつけられることを理解し、意図に合った表現をすることができた。 日常生活で使う文字を正しく整えて書くよう気を付けて練習することができた。 |

取得可能な検定や資格

| N | O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|---|-----------------------------------|--|--|--|---------|
| 10 | | 外国語 | 英語コミュニケーションI | 2/4 (2年次まで継続履修) | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | | |
| 1 | なし | なし | VISTA English Communication I (三省堂) | | |
| 目標 | | | | | |
| 外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、表現力、判断力 | | 学びに向かう力、人間性 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の理解を深める。 これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。 | | <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの要点や概要を、的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | | <ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | |
| 単元・項目 | 学習内容 | | 到達度目標 | | |
| 前期 | Get Ready!1~3 | <ul style="list-style-type: none"> ○アルファベット ○辞書の使い方 ○英語での指示 ○英文法の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの太文字、小文字を正しく書くことができる。 ・アルファベットの音を正しく聞き取ることができる。 ・語句を辞書を使って意味や品詞を調べることができる。 ・調べた語句の発音ができるようになる。 ・授業中の英語での指示を理解できる。 ・主語・動詞・形容詞・副詞・前置詞・冠詞・目的語とはどのようなものかをしかりと理解することができる。 ・be 動詞を理解し、正しく使うことができる。 ・人称、三単現の s, es について理解し正しく使うことができる。 | | |
| | Lesson1 Colors of Spring | <ul style="list-style-type: none"> ○国によって異なる春のイメージカラーの相違 ○動詞 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の持つ春のイメージカラーを英語で話し相手に伝える事ができる。 ・be 動詞、一般動詞を使った文の形を理解し、疑問文、否定文を正しく作ることができる。 | | |
| | Lesson2 Dick Bruna | <ul style="list-style-type: none"> ○Dick Burna 氏について ○be 動詞、一般動詞の過去形 | <ul style="list-style-type: none"> ・Dick Burna 氏の代表作品や絵の特徴等を知り、それについて自分の好みや意見を聞いたり話したり書いたりして、話し相手に伝えることができる。 ・過去の出来事について、過去形を使い正確に話すこと、書くことができる。 | | |
| 後期 | Lesson3 Interesting Sports | <ul style="list-style-type: none"> ○面白いスポーツとは ○進行形 | <ul style="list-style-type: none"> ・ユニークなスポーツを知る。 ・自分が挑戦してみたいスポーツについて話し、相手に伝える事ができる。 ・動詞を現在分詞の形に正しく変形することができる。 ・自分の動作の状況を、進行形を使い、書いたり話したりして相手に伝える事ができる。 | | |
| | Lesson3 Lesson4 Pictograms | <ul style="list-style-type: none"> ○進行形 ○pictogram について ○助動詞 ○動名詞 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在と過去の状況を現在・過去進行形を使い言語と文章で表現できる。 ・pictogram が国際社会で果たす重要性な役割を知る。 ・can will の使い方を理解し（肯定文・疑問文・否定文）を作ることができる。 ・助動詞を使い、自分の意思や行動を話したり書いたりして相手に伝えることができる。 ・動名詞の使い方を理解し、自分の趣味や行動を話したり書いたりして表現することができる。 | | |
| | Lesson 5 We Are Part Of Nature | <ul style="list-style-type: none"> ○岩合氏の動物と自然への思い ○不定詞 ○5文型 | <ul style="list-style-type: none"> ・岩合光昭さんの写真から、岩合氏の動物だけでなく自然に対しての思いを感じる。 ・英語の5文型で使用される SVOC がそれぞれを何が指すのか、また働きを正確に理解する。 ・英文を第1～5文型のどの型に属するのかを正しく見極めることができる。 | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・実用英語技能検定 ※3級を取得すると1単位、準2級を取得すると2単位の増加単位として認定される。（英語コミュニケーションIを修得した場合に限る） より高い級を取得した場合、認定単位数の差を増加単位として認定する。 | | | | | |

| N | O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|--|-----------------------------|---|---|--|---------|
| 11 | 家庭 | 家庭総合 | | 2 / 4 (2年次まで継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | | |
| 1 | なし | なし | 教科書 家庭総合(実教出版) 副教材 生活学Navi 資料+成分表(実教出版) | | |
| 目標 | | | | | |
| 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、表現力、判断力 | | 学びに向かう力、人間性 | |
| 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけるようにする。 | | 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 | | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 | |
| 単元・項目 | | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 前期 | 生活をつくる 「食生活をつくる」 | <ul style="list-style-type: none"> 人と食物のかかわり 私たちの食生活 栄養と食品のかかわり 食事の計画と調理 食品の選び方と安全 食事の計画と調理 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の食文化の形成と特徴についてわかる。 各ライフステージの食生活の特徴を理解し、生涯を見通した食生活の管理運営ができるようになる。 栄養・食品・調理・衛生について科学的に理解できる。 食生活に関心をもち、調理実習を通して食生活の自立に必要な知識と技術を習得している。 食生活にかかわる情報を適切に判断し、環境に配慮した食生活を主体的に営むことができる。 バランスのとれた食事の献立をたてることのできる。 | | |
| | 実践活動 「ホームプロジェクト」 | <ul style="list-style-type: none"> ホームプロジェクト 発表と評価 | <ul style="list-style-type: none"> 生活に関心をもち、生活課題を見つけ解決できる。 実践内容をレポートや発表をとおして説明できる。 | | |
| 後期 | 人とかかわって生きる 「自分らしい生き方と家族」 | <ul style="list-style-type: none"> 自立した生き方、共に生きる人生 共に生きる家族 家族に関する法律 私たちの生活を支える労働と生活時間 | <ul style="list-style-type: none"> 各ライフステージの特徴と課題を理解し、自分らしく生きることと共に生きることについて考えている。 家族の機能と家族関係、家族と法律、家庭生活と福祉などについて理解している。 仕事と生活の調和や、家族の一員として役割を果たし、男女が協力して家庭生活を営む重要性についてわかる。 | | |
| | 「高齢者とかかわる」 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢社会に生きる私たちの暮らし 高齢者を知る 高齢者の自立のためにできること 介助体験 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢社会の状況及び福祉などについて理解している。 高齢者の心身の特徴や高齢者の生活の課題や家族、地域及び社会の果たす役割について認識している。 高齢者の自立生活を支えるための支援の方法や高齢者とかかわることの重要性を理解している。 介助体験を通して、介護で大切なことが何かがわかる。 | | |
| | 「社会とかかわる」 | <ul style="list-style-type: none"> 支えあう暮らしとは | <ul style="list-style-type: none"> 社会保障制度のしくみと理念を理解している。 | | |
| 後期 | 消費者として自立する 「消費行動を考える」 | <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化と消費生活 消費者の権利と責任 | <ul style="list-style-type: none"> 流通や販売方法が複雑化・多様化する中で、財・サービスを購入する際に、生活情報を適切に判断し活用できる。 消費者問題や消費者の権利と果たす役割がわかる。 | | |
| | 「経済的に自立する」 | <ul style="list-style-type: none"> 経済のしくみを知る 生活設計 | <ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通した家計管理の在り方や不測の事態に備えた経済上のリスク管理について考えることができる。 | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| なし | | | | | |

| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|------|-----|-------|--------------|---------|
| 1 2 | 農業 | 農業と環境 | 4 | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 1 | なし | なし | 農業と環境 (実教出版) | |

目 標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|--|---|--|
| 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |

| 単元・作品名 | | 学習内容 | 到達 度 目 標 |
|--------|--|--|---|
| 前 期 | 1 トウモロコシの栽培 ・栽培計画 ・たねまき ・たねまき後の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシの一生 ・品種とその選択 ・たねまきの準備 ・たねまきの適期 ・幼苗の生育 ・耕起整地の方法 ・畑の準備 ・追肥、中耕、土寄せ ・病虫害防除 ・開花、結実 ・収穫 | <ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシの一生と主な管理について把握している。 ・良い種子の条件について理解している。 ・たねまきの準備手順ができる。 ・葉、根の生長を観察することができる。 ・うねの作り方と施肥について理解している。 ・植え付け方法を理解している。 ・追肥の役割と時期について理解している。 ・中耕・土寄せの効果について理解することができる。 ・病虫害の種類について理解できる。 ・受粉受精のしくみについて理解している。 ・収穫の適期を判断できる。 ・栽培の記録ができる。 ・生育調査ができる。 |
| | 2 学校農業クラブ | <ul style="list-style-type: none"> ・学校農業クラブの目標 ・組織と活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業高校の学習の中で農業クラブが果たす役割を理解している。 |
| 後 期 | 3 ダイコンの栽培 ・たねまき ・育苗(栽培) | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイコンの一生 ・たねまき ・畑準備と定植 ・栽培管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイコンの一生と主な管理作業について理解している。 ・たねまきの方法とたねまきの時期について考えることができる。 ・種子と発芽について理解することができる。 ・肥料の与え方、中耕、除草を確実に実施できる。 ・初期生育と管理について把握している。 ・根の肥大のしくみについて理解している。 ・ダイコンに寄生する病虫害と生理障害について理解している。 ・生育調査ができる。 |
| | 4 プロジェクト学習のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシやダイコンの生育調査結果をまとめる | <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果からわかることを推測できる。 |
| | 5 日本の農業 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の農業と環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業と自然の関わりを理解できる。 ・農業と環境における課題について理解している ・これから求められる農業について理解している。 |

取得可能な検定や資格

なし

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|---|----------------------------------|---|---|--|
| 13 (1) | 農 業 | 総 合 実 習 | 3 / 9 (3年次までの継 続 履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 1 | な し | 4分野ローテーショ ン(野菜) | 総合実習テキスト | |
| 目 標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。 ・ 2、3年次の系列選択に向け、各系列(草花、野菜、造園)に関する知識と技能を身に付ける。 ・ 野菜の特性や栽培に適した環境について学習し、良質で多くの収量を上げることが出来るようにする。 | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 |
| 農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | | 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | | 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 |
| 単元・作品名 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 | 春野菜の育苗 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 育苗 ・ 栽培用具 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ナス、トマトなどの春野菜の育苗の目的を理解し、かん水などの管理をすることができる。 ・ 鉢上げ、鉢替えを確実にを行い、その必要性を把握している。 ・ 栽培用具について知り、安全に正しく扱うことができる。 | |
| | ・ 果菜類の栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生育の特性と管理 ・ 収穫と調整 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 半促成キュウリなど果菜類の生育特性を理解し、生育に応じた栽培管理ができる。 ・ 果菜類の収穫や、販売のための調整ができる。 | |
| | ・ 葉菜類の栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生育の特性と管理 ・ 本畑管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ キャベツなど葉菜類のたねまきや育苗管理ができる。 ・ 定植時期や方法を理解し、定植することができる。 | |
| | ・ 植え付け後の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 植え付け後の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生育状況に応じた栽培管理ができる。 ・ 追肥や除草、薬剤散布等できる。 | |
| 期 | 秋野菜の育苗 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 種まき ・ 育苗管理と定植 ・ 病虫害防除 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 秋野菜の種まきの準備や種まきができる。 ・ 育苗管理及び定植ができる。 ・ 病虫害の防除ができる。 | |
| | 秋野菜の栽培 ・ 葉菜類 ・ 根菜類 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本畑管理 ・ 収穫、調整、販売 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ハクサイ、ダイコンなどの秋野菜の、中耕、追肥、除草、病虫害防除などできる。 ・ 農産物即売会を体験し、収穫調整や販売ができる。 | |
| 後 | 春野菜の育苗 ・ 果菜類 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 育苗 ・ 被覆資材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ よい苗の条件を学習し、苗の良否を理解できる。 ・ 春野菜の種まきと育苗管理ができる。 ・ 育苗管理に使う資材の基本機能を理解できる。 | |
| | 取得可能な検定や資格 | | | |
| ・ 日本農業技術検定3級 | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|---|-------------------------|---|--|--|
| 13 (3) | 農 業 | 総合実習 | 3/9 (3年次までの継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 1 | な し | 4分野ローテーション (造園) | 総合実習テキスト | |
| 目 標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。 ・2、3年次の系列選択に向けて、それぞれの系列(草花、野菜、造園)に関する知識と技術を身に付ける。 ・庭木の特性や栽培に適した環境について学習し、経営と管理についての実践的な能力と態度を身に付ける。 | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 |
| 農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | | 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | | 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 |
| 単元・作品名 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | マンリョウの栽培 タマリユウの栽培 | ・マンリョウの播種 ・タマリユウの株分け | <ul style="list-style-type: none"> ・実生繁殖方法を理解し、正しい播種ができる。 ・タマリユウの繁殖方法を理解し、正しい株分けができる。 | |
| | ハウス内の環境整備 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内の除草をすることができる。 | |
| | ツバキの栽培 | ・さし木 | <ul style="list-style-type: none"> ・ツバキのさし木繁殖の方法、手順を理解し、正しいさし木ができる。 | |
| | 薬剤散布 ○特別実習 当番実習 | ・薬剤散布の目的と方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除方法を理解し、目的に応じて薬剤散布ができる。 | |
| | 鉢物・盆栽の管理 | ・追肥と除草 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉢物・盆栽の追肥と除草を正確に行うことができる。 | |
| 後 期 | 環境整備 | | <ul style="list-style-type: none"> ・雑草が病害虫の温床になることを理解することができる。 | |
| | 鉢物・盆栽の管理 | ・鉢物の管理方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・雑草が病害虫の温床になることを理解することができる。 | |
| | 庭木の雪囲い | <ul style="list-style-type: none"> ・なわの結び方 ・雪囲い ・雪吊り | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的ななわの結び方が理解でき、正しく結ぶことができる。 ・庭木の正しい雪囲いができる。 ・マツなどの雪吊りができる。 | |
| | 庭木の根回し ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・根回し準備 ・溝掘り ・埋め戻し | <ul style="list-style-type: none"> ・庭木の正しい根回しができる。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| ・日本農業技術検定 3級 | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|---|---------------|--|---|---------|
| 13 (4) | 農業 | 総合実習 | 3/9 (3年次までの継続修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 1 | なし | 4分野ローテーション(作物) | ・総合実習テキスト | |
| 目 標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。 ・水稻の特性や栽培に適した環境について学習し経営と管理についての実践的な能力と態度を身に付ける。 | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 | |
| 農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | | 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 | |
| 単元・作品名 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | 水稻の栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・育苗管理 ・水田準備 ・田植え ・溝掘り ・病虫害防除 | <ul style="list-style-type: none"> ・播種ができる。 ・育苗期を出芽・緑化・硬化に分け、それぞれの生育期間に適する環境を理解し、健康な苗の育成ができる。 ・植え付けるのに適した圃場条件を理解し、整地することができる。 ・初期除草剤散布について、除草剤を正しくより有効に使用することができる。 ・稚苗の植え付け適期を理解し、活着の良い天候条件を選び、田植えをすることができる。 ・補植として、手植えが正しくできる。 ・水田における水管理の重要性を知り、手溝掘りができる。 ・イネの病気の症状、害虫の種類を知り、適切な農薬を選び、安全で効果的に薬剤散布ができる。 | |
| | 特別実習・ 当番実習 | | | |
| 後 期 | 水稻の栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・収穫 ・乾燥調整 ・秋起こし ・育苗準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期を知り、収穫作業を正しく行うことができる。 ・もみの乾燥が品質の高い米に仕上げる過程であることを理解することができる。 ・もみすり機の働きと主要部の構造について理解できる。 ・収穫後の水田整備の必要性について理解できる。 ・育苗器材の洗浄及び消毒を徹底し、育苗環境を清潔に保つことができる。 ・床土の条件を理解し、強健な苗が生育する床土を作ることができる。 ・均一な種まきができるように、正しい床土入れができる。 ・育苗期の環境条件を理解し、均一で強健な苗を育成でき、また風等に耐えるビニールハウスを作ることができる。 | |
| | 特別実習 当番実習 | | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| ・日本農業技術検定3級 | | | | |

| N | O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|---|--------------------|--|--|--|---------|
| 14 | | 農 業 | 農業と情報 | 2 | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | | |
| 1 | なし | なし | 農業と情報（実教出版） ビジネス文書実務検定模擬試験問題集基礎からの3級（実教出版） | | |
| 目 標 | | | | | |
| <p>社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報に関する知識技術を習得する。 農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。 農業技術検定中級合格に必要な知識と技術を習得する。</p> | | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 | |
| 農業と情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | | 農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | | 農業と情報について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 | |
| 単 元 ・ 項 目 | 学 習 内 容 | | 到 達 度 目 標 | | |
| 前 期 | 生活と農業の情報化 情報の基礎 | 情報化社会のモラルとセキュリティ コンピュータのしくみと利用 情報ネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> 情報モラルや情報セキュリティについて認識を深め、その重要性を理解している。 補助記憶装置や入力装置、出力装置などの用途についての知識を身に付けている。 情報通信ネットワークに関心をもち、それらの操作方法の習得に意欲的に取り組む態度を身に付けている。 | | |
| | コンピュータによる情報の活用 | 情報のセキュリティ管理 日本語ワードプロセッサの利用 農業技術検定の練習 速度文中級の練習 通信文中級の練習 | <ul style="list-style-type: none"> 情報のセキュリティ管理について基礎的な知識を身に付けている。 ワープロソフトの基本操作を習得し、特徴や機能に関する知識を身に付けている。 キーボード操作に慣れ、習熟している。 文書の構成や構成要素の配置について理解している。 実際に文書を作成できる。 10分で200字以上の文字を打つことができる。 15分で200字程度の案内文を作成することができる。 | | |
| 後 期 | 農業情報及び森林・環境情報の活用 | 速度文上級の練習 通信文上級の練習 表計算ソフトの利用 プレゼンテーションソフトの利用 農業の各分野での情報の活用 | <ul style="list-style-type: none"> 10分で300字以上の文字を打つことができる。 20分で250字程度の案内文を作成することができる。 表計算ソフトの基本操作を習得し、特徴や機能に関する知識を身に付けている。 プレゼンテーションソフトの基本操作を習得し、特徴や機能に関する知識を身に付けている。 農業の各分野での情報システムの活用例について理解している。 | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 日本情報処理検定協会日本語ワープロ検定試験 ※1級を取得すると3単位、準1級を取得すると2単位、2級・準2級を取得すると1単位の増加単位として認定される（農業情報処理を修得した場合に限る。より高い級を取得した場合、認定単位数の差を増加単位として認定する。） | | | | | |

| | | | | |
|------|-----|------|---------------|---------|
| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
| 15 | 国語 | 言語文化 | 2 | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 2 | なし | なし | 大修館書店 新編 言語文化 | |

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|---|--|--|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| 単元・作品名 | | 学習内容 | 到達度目標 |
|--------|--------------------------------|---|---|
| 前期 | 季節の言葉と出会う (ことばと出会う) | <ul style="list-style-type: none"> 言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉の役割を理解する。 日常使っている言葉を見つめ直す。 | <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、想像を支える働きがあることを理解できる。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえることができる。 言葉についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日常使っている言葉を見つめ直すことができる。 |
| | 漢字と仮名の使い分け (ことばと出会う) | <ul style="list-style-type: none"> 日本語の表記の特色について、筆者の主張をとらえる。 表記について調べたり考えたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化やその背景について理解を深め、文章の中で使うことができる。 文章の内容や構成を的確にとらえることができる。 |
| | いろは歌 古文冒頭選 (古文に親しむ) | <ul style="list-style-type: none"> 古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。 受け継がれてきた古文を音読する。 | <ul style="list-style-type: none"> 時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解できる。 古文を読むことに興味を持ち、積極的に音読したり、響きやリズムを味わったりできる。 |
| | 訓読のきまり 格言 (漢文に親しむ) | <ul style="list-style-type: none"> 漢文の訓読のきまりについて学ぶ。 普段使われている漢語について学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 訓読のきまり、日本語との語順の違いを理解し、例文を正確に音読したり、内容を理解したりできる。 我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、自分のものの見方、考え方を深めることができる。 |
| 後期 | とんかつ (表現を味わう) | <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 語り手の役割や作品の構造を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取ることができる。 語り手の役割や、登場人物に対する印象の変化、場面の展開、作品の構造について理解できる。 |
| | 十二の「子」文字 (古文に親しむ) | <ul style="list-style-type: none"> 誰の発言かに注意して物語の内容を読み取る。 古典特有の表現や漢字の読みの多様性を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 会話文がそれぞれ誰の発言なのか理解できる。 当時の貴族にとって漢文がどのようなものであったかを理解できる。 「子」に多様な読みがあること、十二支、多様な読みがある他の漢字について理解できる。 |
| | 羅生門 羅生門の世界 (物語を受け継ぐ) | <ul style="list-style-type: none"> 小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 もとなつた古典作品との比較を通して内容の解釈を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> 場面の展開を把握し、場面ごとに変化する登場人物の心情を読み取ることができる。 文章中の比喩表現について理解できる。 「羅生門」と「今昔物語集」を比較して、両者の相違点や表現効果について理解できる。 |
| | 春のうた/夏のうた/秋のうた/冬のうた (詩歌の調べ) | <ul style="list-style-type: none"> 詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。 作者や作品について調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> 枕詞などの修辞技法や古典特有の表現などについて理解し、作品を読み味わうことができる。 学習した詩歌を暗唱したり、作者や作品について調べたりすることで、積極的に言語文化への理解を深めることができる。 |

取得可能な検定や資格

漢字検定 硬筆書写検定

| N | O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|--|---------------------|--|---------------------------------------|--|--|
| 16 | | 公 民 | 公 共 | 2 / 4 (1・2年次継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | | |
| 2 | なし | なし | 公共 (実教出版) 高校生のためのふるさと富山 (富山県教育委員会) | | |
| 目 標 | | | | | |
| 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解し、それらに関する諸課題について主体的に考え、公正な判断力、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。 | | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 | |
| 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための概念や理論について理解するとともに、情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 | | 現実社会の諸課題の解決に向けて、基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、議論する力を養う。 | | 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。 | |
| 単元・作品名 | | 学 習 内 容 | | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | 現代の経済社会と国民生活 | 現代の経済社会 | 日本経済の特質と国民生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・家計・企業・政府がどのように国民経済を構成しているのかを理解できる ・資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較し理解できる。 ・市場メカニズムの基本を理解し、市場の失敗についても考察を深める。 ・株式会社など現代の企業の、所有と経営の分離を理解できる。 ・国民所得の概念を理解し経済成長や、真の豊かさについて考察を深める。 ・金融の役割や金融政策の概要や日本銀行の役割について理解する。 ・財政政策の概要を把握する。また日本の財政の課題についても考察できる。 ・戦後日本の高度経済成長の理由を理解し、人口減少、少子高齢化、など経済の二重構造など転機に立つ日本経済の抱える問題点を考察できる。 ・食糧問題について理解を深め、日本の農業の在り方について考察できる。 ・消費者問題の概要を理解し、賢い消費者として駆動できる。 ・地元富山のイタイタイ病の事実を理解し、環境保全にいかに関与的にかかわっていけるか考察できる。 ・今日の労働問題を理解し、労働者の権利について理解できる。 ・社会保障制度の仕組みや役割を理解し、抱える課題について考察できる。 | |
| | 国際社会と人類の課題 | 国際政治の動向と課題 | | 国際経済の動向と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会と国際法の基本を理解し、国際政治の変化について理解する。 ・国際連合の役割と冷戦終結後の日本の安全保障体制について考察できる。 ・民族紛争など、複雑な国際関係を幅広い視点から考察できる。 ・国際平和に関する問題について、日本が貢献できることについてさまざまな視点で考察できる。 ・国際経済の基本概念や、国際収支の基本的な構成を理解できる。 ・外国為替市場のしくみを理解するとともに、円高・円安が、自分の生活にどのように影響するかについて関心をもつ。 ・戦後のIMF・GATTなど貿易の自由化が経済に大きな影響を与え、それによって、地域的経済統合の動きなどがみられることを理解する。 ・経済のグローバル化により経済格差が発生したことを把握・考察できる。 ・SDGsの実現に向けて主体的に何ができるかを考察する。 ・これまでの学習の成果の上に立って課題を追究し、資料を収集することにより、自分なりの考えを持つことができる。 ・身の回りの具体的な事例をもとに、地球環境問題などの世界的な諸問題について考察し国際社会における日本の役割について考察できる。 |
| 後 期 | 持続可能な社会づくりの主体となる私たち | 持続可能な社会を目指す | | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| なし | | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 | |
|--|------------------|---|--|---|--|
| 17 | 理 科 | 生 物 基 礎 | 2 | 必修 | |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | | |
| 2 | なし | なし | 実教出版 高校生物基礎 実教出版 高校生物基礎カラーノート | | |
| 目 標 | | | | | |
| 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 | |
| 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 | | 生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、分析・解釈、推論などの探究の方法が習得する。 | | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養う。 | |
| 単 元 ・ 項 目 | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | | | |
| 前 期 | 1 生物の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性 生物とエネルギー | <ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、ATP と関連づけて考察し、それを表現できる。 | | |
| | 2 遺伝子と そのはたらき | <ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報とDNA 遺伝情報とタンパク質の合成 | <ul style="list-style-type: none"> DNA の二重らせん構造、2 本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。 DNA の遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。 | | |
| 後 期 | 3 ヒトのからだの調節 | <ul style="list-style-type: none"> 体内環境 体内環境の維持のしくみ 免疫 | <ul style="list-style-type: none"> 肝臓や腎臓のはたらきを通して、体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。 | | |
| | 4 生物の多様性と生態系 | 生態系とその成り立ち | 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 | | |
| | | 植生とバイオーム | 地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 | | |
| 生態系と生物の多様性 | | 生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できる。 | | | |
| 生態系のバランスと保全 | | 生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 | | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| なし | | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|--|---|---|--|--|
| 18 | 保健体育 | 体育 | 2 / 7 1～3年次まで継続履修 | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 2 | なし | なし | 現代高等保健体育（大修館） | |
| 目 標 | | | | |
| <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 |
| <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> | | <p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> | | <p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p> |
| 単元・作品名 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | <p>体づくり運動</p> <p>スポーツテスト</p> <p>陸上競技</p> <p>・短距離走、リレー</p> <p>球技</p> <p>・バドミントン</p> <p>体育理論</p> <p>・サッカー</p> | <p>体ほぐしの運動</p> <p>体力を高める運動</p> <p>各種測定</p> <p>50m、100m 走</p> <p>バトンパス、ハードル走</p> <p>基本技術（ドライブ、ハイクリア、サーブ、ヘアピン、スマッシュ）簡易ゲーム</p> <p>・スポーツの技術と戦術</p> <p>・技能の上達過程と練習</p> <p>基本技術（パス、ドリブル、シュート）戦術練習、簡易ゲーム</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自己の体への関心と体づくりへの取り組みができる。 健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための取り組みができる。 実践を通して陸上競技の楽しさにふれている。 自己の技術的・体力的課題を知り、その解決を図りながら記録の向上を目指している。 バドミントンの特徴を理解し、正しくシャトルを打つことができる。簡易ゲームでラリーを楽しむことができる。 技能と体力の関係について説明できる。 技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。 サッカーの特性と戦術を理解し、ゲームの攻防を楽しむことができる。空いたスペースを活用した攻防ができる。 | |
| | 後 期 | <p>球技</p> <p>・ソフトボール</p> <p>ダンス</p> <p>球技</p> <p>・テニス</p> <p>・バスケットボール</p> <p>体育理論</p> | <p>基本技術（打つ、捕える、投げる、走る）</p> <p>エアロビクスダンス</p> <p>現代的リズムのダンス</p> <p>フレッシュテニス</p> <p>基本技術（フォア、バック、ロブ）簡易ゲーム</p> <p>基本技術（ドリブル、レイアップシュート、ジャンプシュート）簡易ゲーム</p> <p>・効果的な動きのメカニズム</p> <p>・技能と体力</p> | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な技術を身に付けている。 個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限に活用してゲームができる。 音楽に合わせて楽しく体を動かすことができる。 基本的な技術を身につけ、相手側のコートに空いた場所をめぐる攻防ができる。 基本的な技術を身に付けている。 バスケットボールの特性と戦術を理解し、ゲームの攻防を楽しむことができる。 体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのか説明できる。 技能と体力の関係について理解できる。 |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| なし | | | | |

| | | | | |
|------|------|-----|----------------------|---------|
| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
| 19 | 保健体育 | 保健 | 1 / 2 1～2年次まで継続履修 | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 2 | なし | なし | 現代高等保健体育（大修館） | |

目 標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|---|--|--|
| 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 |

| 単元・作品名 | 学習内容 | 到達 度 目 標 |
|--------|---|---|
| 前 期 | <ul style="list-style-type: none"> ○生涯を通じる健康 ・生涯の各段階における健康 ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動 選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・思春期の体の変化を理解し、各段階の健康課題に応じた自己の健康管理の方法を理解している。 ・信頼できる性情報と性行動の選択ができる。 ・胎児を守る母胎の役割を理解している。 ・安全で確実な避妊法を理解している。 ・結婚生活と健康のつながりを理解している。 ・加齢とともに、体と心に変化することを理解している。 ・中高年を健やかに生きる方法を理解している。 ・職業病、労働災害の予防法を理解している。 |
| 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> ○健康を支える環境づくり ・環境と健康 ・食品と環境の保健 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動 ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・大気にかかわる環境問題は、地球規模に広がっていることを理解している。 ・水質汚濁や土壌汚染は、さまざまな経路で健康に影響をあたえていることを理解している。 ・大気汚染・水質汚濁・土壌汚染は相互に関連していることを理解している。 ・環境汚染を防ぐために、社会的対策がとられていることを理解し、自分ができることを実践している。 ・行政や企業が、食品の安全を守る役割を担っていることを理解している。 ・働き方の変化にともない、健康問題が変化してきたことがわかる。 ・わが国における保健・医療制度を理解し、自らが健康のために活用できる。 |

取得可能な検定や資格

なし

| N | O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|---|------------------------------------|--|--|--|---------|
| 20 | | 外国語 | 英語コミュニケーションI | 2 / 4 (2年次まで継続履修) | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | | |
| 2 | なし | なし | VISTA English Communication I (三省堂) | | |
| 目標 | | | | | |
| 外国語(英語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、表現力、判断力 | | 学びに向かう力、人間性 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の理解を深める。 これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。 | | <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの要点や概要を、的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | | <ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | |
| 単元・項目 | 学習内容 | | 到達度目標 | | |
| 前期 | Lesson6 Machu Picchu | <ul style="list-style-type: none"> マチュピチュとは 過去分詞(その1) 現在完了形 | <ul style="list-style-type: none"> マチュピチュの建造物の特徴を知る。 マチュピチュの建造にある巨大な石の謎を知る。 マチュピチュの自然と人々の暮らしを知る。 過去分詞を書けるようになる。 現在完了形の用法を知り、どの用法なのかを英文中から判断できるようになる。 現在完了形を使い(否定・疑問含む)、自分の意思や行動を話したり書いたりして相手に伝える事ができる。 現在完了形が入った質問をきいて、正しく答える事ができる。 | | |
| | Lesson7 Artificial Intelligence | <ul style="list-style-type: none"> 様々なAIについて 過去分詞(その2) 受身(現在・過去) | <ul style="list-style-type: none"> まんがの中のドラえもんについて、AIの側面から知る。 AI搭載の掃除機ができる事について知る。 AI搭載のペット型ロボットのできる事について知る。 過去分詞をさらに多く書けるようになる。 受身の表現を使い(否定・疑問含む)、自分の意思や行動を、話したり書いたりして相手に伝える事ができる。 受身の表現が入った質問きいて、正しく答える事ができる。 | | |
| 後期 | Lesson8 Is There a Santa Claus? | <ul style="list-style-type: none"> サンタクロースについて 関係代名詞 | <ul style="list-style-type: none"> バージニアが知りたかった事を知る フィンランドに住むサンタクロースの生活を知る 編集者のバージニアへの答えを知る 関係代名詞の種類と使い方を知る。 関係代名詞を使い、自分の意思や行動を話したり書いたりして相手に伝える事ができる。 | | |
| | Lesson9 Kids' Guernica | <ul style="list-style-type: none"> キッズゲルニカプロジェクトについて 現在分詞・過去分詞 | <ul style="list-style-type: none"> ピカソがゲルニカを描いたきっかけを知る。 キッズゲルニカの活動内容を知る。 キッズゲルニカの活動の目的を知る。 現在分詞を書けるようになる。 名詞を修飾する現在分詞・過去分詞の使い方を理解する。 これを使用して、自分の意思や行動を話したり書いたりして相手に伝える事ができる。 | | |
| | Lesson10 Ethical Fashion | <ul style="list-style-type: none"> エシカルファッションについて 比較 | <ul style="list-style-type: none"> エシカルファッションとはどのようなものかを知る。 比較級と最上級を書けるようになる。 比較の表現の種類と使い方を理解する。 これを使用して、自分の意思や行動を話したり書いたりして相手に伝える事ができる。 | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 実用英語技能検定 ※3級を取得すると1単位、準2級を取得すると2単位の増加単位として認定される。(英語コミュニケーションIを修得した場合に限る) より高い級を取得した場合、認定単位数の差を増加単位として認定する。 | | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|--|--------------------------|---|--|--|
| 21 | 家 庭 | 家庭総合 | 2 / 4 (2年次まで継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 2 | な し | な し | 教科書 家庭総合(実教出版) 副教材 生活学Navi 資料+成分表(実教出版) | |
| 目 標 | | | | |
| 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、表現力、判断力 | | 学びに向かう力、人間性 |
| 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけるようにする。 | | 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 | | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 |
| 単 元 ・ 項 目 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | 人とかかわって生きる 「子どもとかかわる」 | ・子どもを知る ・発達のすばらしさ | <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期は人間の発達段階において重要で、発育・発達には一定の順序と共通性があることがわかる。 ・乳幼児期は、その発達段階に応じた親の働きかけや人とかかわりが重要であることがわかる。 ・保育への関心をもち、子どもの発達の実際の姿がわかる。 | |
| | 生活をつくる 「衣生活をつくる」 | ・人と衣服のかかわり ・衣服の機能 ・衣服の素材を見よう ・衣服の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の変遷に関心をもち、和服や洋服の構成上の特徴や被服材料、着装の特徴がわかる。 ・心地よい被服が、体格や体型、身体の動きに合っており、着用目的に適していることがわかる。 ・健康と安全・資源と有効利用の観点から被服の入手と活用、手入れ、廃棄までの被服計画の必要性がわかる。 | |
| | 実践活動 「ホームプロジェクト」 | ・ホームプロジェクト ・発表と評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活に関心をもち、生活課題を見つけ解決できる。 ・実践内容をレポートや発表をとおして説明できる。 | |
| 後 期 | 「子どもとかかわる」 | ・親になることを考えよう ・子どもの生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・親とかかわりが将来の人間関係の基礎となることや、社会的自立には発達に応じて社会的な規範を身に付けさせることが親の重要な役割であることがわかる。 ・子どもの生活については、基本的な生活習慣の形成、食事や衣服、健康管理と安全などの概要がわかる。 ・遊びは子どもの生活の大部分を占めており、遊びを通して心身の発達や健康の保持増進がされることがわかる。 | |
| | 「住生活をつくる」 | ・人と住まいのかかわりと住まい ・住まいを計画する ・健康的な住まい環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族の生活の場としての住居の条件や、家族構成やライフステージの変化と住要求の関係についてわかる。 ・安全で快適、健康で耐久性のある住居の機能がわかる。 ・平面図等を活用し住空間や住生活を考えることができる。 ・安全性・保健性・利便性・快適性・持続可能性の面から住宅内部や周辺の環境に配慮した快適な居住について関心をもち、安心して住める環境を考えている。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| なし | | | | |

| No. | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 | |
|---|-----------|---|---|---|--|
| 22 | 農業 | 課題研究 | 2 / 4 (3年次までの継続履修) | 必修 | |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | | |
| 2 | なし | なし | | | |
| 学習の目標 | | ・農業に関する課題を設定し、その解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付ける。 | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 | |
| 農業に関する総合的な課題を自ら発見、設定すると共に、その解決に向けて農業の基礎的な知識・技術を身につける。 | | 農業に関する総合的な課題を自ら発見し、農業や農業関連産業に携わる者として、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | | 農業に関する総合的な課題解決につながる知識や技術が身につくよう自ら学び、農業の振興に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。 | |
| 単元・項目 | 学習内容 | 到達度目標 | | | |
| 前期 | 課題設定と研究計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定課題は、①～⑤までの2項目以上にまたがる課題を設定する。 ①調査、研究、実験 ②作品製作 ③産業現場等における実習 ④職業資格の修得 ⑤学校農業クラブ活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心・進路希望等に応じて、野菜・草花・造園・作物・食料の5分野から、研究分野を選択することができる。 ・個人またはグループで、前年のプロジェクト学習をふまえて、農業に関する適切な課題を設定することができる。 | | |
| | 研究の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画 ・研究の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・設定した課題を研究するための計画を具体的にたてることができる。 ・実施計画に従い、研究を行う方法を調べることができる。 ・設定した課題に、意欲的、計画的に取り組むことができる。 ・毎時間の実験結果を適切にまとめ、記録簿に記入することができる。 | | |
| | 研究の中間考察 | <ul style="list-style-type: none"> ・中間まとめと考察 | <ul style="list-style-type: none"> ・前半の研究結果をまとめ、結果や発生した問題を考察することができる。 ・問題解決を目指して思考を深め、基本的な知識と技術を活用して判断し、今後の研究計画を合理的にたてることができる。 | | |
| 後期 | 研究の継続実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・継続研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・設定した課題に、創意工夫しながら創造的、実践的に取り組み、適切に処理することができる。 ・専門的な知識や技術を身に付け、調査、研究、実験方法を理解している。 | | |
| | 研究のまとめと発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめと考察 ・要旨集原稿の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の実験結果を適切にまとめ、記録簿に記入することができる。 ・研究成果をまとめ、総合的に考察し、次年度にむけての反省を行うことができる。 ・専門的な知識や技術、理解した成果を応用し問題を解決しようとする自発的、創造的な態度が身に付いている。 ・ワープロや表計算ソフトを用い、研究内容を的確に表現した要旨原稿を作ることができる。 | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・毒物劇物取扱責任者 ・危険物取扱者（乙種）4類 ※毒物劇物取扱責任者を取得すると2単位、危険物取扱者（乙種）4類を取得すると1単位増加単位として認定される。（課題研究の単位を取得した場合に限る） | | | | | |

| | | | | |
|-----------|-----|------------------------------|-----------------------|---------|
| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
| 23 (1) | 農 業 | 総 合 実 習 | 3 / 9 (3年次までの継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 2 | な し | 前期：4分野ローテーション 後期：専攻実習(野菜) | 総合実習テキスト | |

目 標

- ・農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。
- ・3年次の系列選択に向けて、それぞれの系列(草花、野菜、造園)に関する知識と技術を身に付ける。
- ・野菜の特性や栽培に適した環境について学習し、良質の野菜生産が出来るようにする。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 |
|---|--|--|
| 農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 |

| 単元・作品名 | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
|--------|-------------------------|--|---|
| 前 | 春野菜の育苗 | <ul style="list-style-type: none"> ・育苗のねらい ・育苗方法とその特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・かん水など苗管理ができる。 ・鉢上げ、鉢替えを確実にを行い、その必要性を把握できる。 ・よい苗の形や生育について理解できる。 |
| | 果菜類の栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・トマトの栽培管理 ・キュウリの栽培管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・半促成トマトやキュウリの生育経過を学習し、生育特性を理解できる。 ・果菜類の生育特性を理解した適切な栽培管理ができる。 ・果菜類の収穫調整ができる。 |
| 期 | 葉菜類の栽培 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・育苗のねらい ・育苗方法とその特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・葉菜類の種まきから育苗方法について理解できる。 |
| | 秋野菜の育苗管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・作型と品種の選び方 | <ul style="list-style-type: none"> ・種まき育苗管理ができる。 ・葉菜類の移植栽培の技術を理解できる。 |
| 後 | 施設栽培 葉菜類の栽培管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス被覆材の張り替え ・病害虫防除 ・本畑管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの被覆資材の張り替えができる。 ・病害虫防除の考え方を理解し、実際の防除ができる。 ・土寄せ・間引き・ |
| | 育苗用土および畑の土作り | <ul style="list-style-type: none"> ・追肥 土寄せ ・収穫・調整 ・用土調製と畑への堆肥投入 | <ul style="list-style-type: none"> ・0追肥など管理作業を適切にできる。 ・葉菜類の収穫調整ができる。 ・有機栽培に基礎や土作りの考え方が理解できる。 |
| 期 | ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・果菜類の育苗管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・果菜類の育苗に適する環境条件が理解でき、苗栽培に応用できる。 ・つぎ木の目的と方法について理解している。 |

取得可能な検定や資格

- ・日本農業技術検定 3級
- ・農業経営実習の就業体験をすると1単位の増加単位として認定される。

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|---|---------------------------|--|--|---------|
| 23 (2) | 農 業 | 総 合 実 習 | 3 / 9 (3年次までの継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 2 | な し | 前期：4分野ローテーション 後期：専攻実習(草花) | 総合実習テキスト | |
| 目 標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。 ・3年次の系列選択に向けて、それぞれの系列(草花、野菜、造園)に関する知識と技術を身に付ける。 ・草花の特性や栽培に適した環境について学習し、経営と管理についての実践的な能力と態度を身に付ける。 | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 | |
| 農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | | 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 | |
| 単元・作品名 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | 花壇用草花の育苗管理 花壇用草花の出荷 | ・花壇用苗の鉢上げ ・出荷調整・準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・3号ポットに適する苗を選抜し、植え付けることができる。 ・出荷に適した花壇苗を選別し、枯れ葉を取ったり、草丈をそろえて出荷調整したりすることができる。 | |
| | ハウス内の環境整備 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内の除草をすることができる。 ・栽培環境や作業環境を適切に整理整頓することができる。 | |
| | 鉢ものの栽培管理 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉢替え ・さし芽 ・植え付け後の管理 ・播種 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉢上げと鉢替えの違いを理解することができる。 ・栄養繁殖と種子繁殖の相違点を把握できる。 ・さし芽の目的や管理方法を理解し、実践することができる。 | |
| | ハボタンの育苗管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハボタンの播種 ・ハボタンの鉢替えと薬剤散布 ・ハボタンの追肥 | <ul style="list-style-type: none"> ・播種箱の準備や播種、覆土、腰水かん水が適時にできる。 ・4号ポットに適する苗を選抜し、植え付けることができる。 ・病虫害の防除の仕方を理解することができる。 | |
| 後 期 | 秋～春の草花の栽培管理 草花の販売 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハボタンの鉢替え ・プリムラの鉢替え ・サイネリアの栽培管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉢替えの目的を理解し、実践することができる。 ・農産物即売会を体験し、販売や出荷方法を理解できる。 ・鉢花の草姿について理解できる。 | |
| | 花壇用草花の育苗 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉢上げ ・追肥 | <ul style="list-style-type: none"> ・花壇に利用する草花の種類と特徴を理解できる。 ・よい苗の条件を学習し、苗の良否が生育や収量を大きく左右することを理解できる。 ・肥料の特性、土の特性を理解し、元肥・追肥などの施肥設計ができ、栽培できる。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定 3級 ・農業経営実習の就業体験をすると1単位の増加単位として認定される。 | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|---|--|--|--|---------|
| 23 (3) | 農 業 | 総 合 実 習 | 3 / 9 (3年次までの継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 2 | な し | 前期：4分野ローテーション 後期：専攻実習(造園) | 総合実習テキスト | |
| 目 標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。 ・3年次の系列選択に向けて、それぞれの系列(草花、野菜、造園)に関する知識と技術を身に付ける。 ・庭木の特性や栽培に適した環境について学習し、経営と管理についての実践的な能力と態度を身に付ける。 | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 | |
| 農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | | 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 | |
| 単元・作品名 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | マンリョウの栽培 タマリユウの栽培 なわの結び方 ハウス内の環境整備 ツバキの栽培 薬剤散布 ○特別実習 当番実習 鉢物・盆栽の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・マンリョウの播種 ・タマリユウの株分け ・造園作業に必要なロープワーク ・さし木 ・薬剤散布の目的と方法 ・追肥と除草 | <ul style="list-style-type: none"> ・実生繁殖方法を理解し、正しい播種ができる。 ・タマリユウの繁殖方法を理解し、正しい株分けができる。 ・造園のロープワーク(男結び、うのくび等)を修得する。 ・ハウス内の除草をすることができる。 ・ツバキのさし木繁殖の方法、手順を理解し、正しいさし木ができる。 ・病害虫の防除の仕方を理解し、目的に応じて薬剤散布ができる。 ・鉢物・盆栽の追肥と除草を正確に行うことができる。 | |
| 後 期 | 環境整備 庭木の販売 庭木のせん定 庭木の雪囲い 庭木の根回し ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・根巻き ・せん定 ・なわの結び方 ・雪囲い ・雪吊り ・根回し準備 ・溝掘り ・埋め戻し | <ul style="list-style-type: none"> ・雑草が病害虫の温床になることを理解することができる。 ・根巻きの目的と方法を理解し、実践することができる。 ・農産物即売会を体験し、販売実習や出荷方法を学んでいる。 ・庭木のせん定を体験し、庭木管理方法を学ぶ。 ・基本的ななわの結び方が理解でき、正しく結ぶことができる。 ・庭木の正しい雪囲いができる。 ・マツなどの雪吊りができる。 ・庭木の正しい根回しができる。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定 3級 ・農業経営実習の就業体験をすると1単位の増加単位として認定される。 | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|--|--------------|--|--|---------|
| 23 (4) | 農業 | 総合実習 | 3/9 (3年次までの継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 2 | なし | 前期：4分野ローテーション 後期：専攻実習（作物） | ・総合実習テキスト | |
| 目 標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。 ・水稻の特性や栽培に適した環境について学習し、経営と管理についての実践的な能力と態度を身に付ける。 | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性 | |
| 農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | | 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 | |
| 単元・作品名 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | イネの栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・育苗管理 ・水田準備 ・田植え ・溝掘り ・病虫害防除 | <ul style="list-style-type: none"> ・たねまきができる。 ・育苗期を出芽・緑化・硬化に分け、それぞれの生育期間に適する環境を理解し、健康な苗の育成ができる。 ・植え付けに適した圃場条件を理解し、整地することができる。 ・初期除草剤散布について、除草剤を正しくより有効に使用することができる。 ・稚苗の植え付け適期を理解し、活着の良い天候条件を選び、田植えをすることができる。 ・補植として、手植えが正しくできる。 ・水田における水管理の重要性を知り、手溝掘りができる。 ・イネの病気の症状、害虫の種類を知り、適切な農薬を選び、安全で効果的に薬剤散布ができる。 | |
| | 特別実習 当番実習 | | | |
| 後 期 | イネの栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・収穫 ・乾燥調整 ・秋起こし ・育苗準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期を知り、収穫作業を正しく行うことができる。 ・もみの乾燥が品質の高い米に仕上げる過程であることを理解できる。 ・もみすり機の働きと主要部の構造について理解できる。 ・刈り取り後の水田整備の必要性について理解できる。 ・育苗器材の洗浄及び消毒を徹底し、育苗環境を清潔に保つことができる。 ・床土の条件を理解し、強健な苗が生育する床土を作ることができる。 ・均一な種まきができるように、正しい床土入れができる。 ・育苗期の環境条件を理解し、均一で強健な苗を育成でき、また風等に耐えるビニールハウスを作ることができる。 | |
| | 特別実習 当番実習 | | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定3級 ・農業経営実習の就業体験をすると1単位の増加単位として認定される。 | | | | |

| No. | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|-------------------|--------------------|--|---|---------|
| 24 | 地理歴史 | 世界史A | 2 | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | |
| 3 | なし | なし | <ul style="list-style-type: none"> ・実教出版新版世界史A新訂版 ・浜島書店「プロムナード世界史」 | |
| 学習の目標 | | <ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解する。 ・人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考を培う。 ・国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 | | |
| 単元・項目 | | 学習内容 | 到達度目標 | |
| 前 | リエンテーション | ・リエンテーション | ・世界史学習を進める上での、国名や国の位置などの基本的な事項を理解している。 | |
| | ユーラシアの文明と交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・西アジア世界、イスラム世界 ・ヨーロッパ世界 ・南アジア、東南アジア世界 ・東アジア内陸アジア世界 | <ul style="list-style-type: none"> ・西アジアの風土と諸民族、インダス文明の伝統、イスラムの成立と拡大に触れ、イスラム世界の特徴を把握している。 ・ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教に触れ、ヨーロッパ世界の特徴を把握している。 ・南アジアや東南アジアの風土と諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラムの影響に触れ、南アジア世界の特徴を把握している。 ・東アジアの風土と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制に触れ、日本を含む東アジア世界の特徴を把握している。 | |
| | ユーラシアの文明と交流 | ・ユーラシアの交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・内陸アジアの騎馬遊牧民、オアシス都市の活動を中心に、陸のネットワークの成長とモンゴルによるユーラシアの一体化を把握している。 ・元の大都を拠点とする東西交流と黄海や東シベリアにおける交易の活性化、倭寇、勘合貿易、琉球王国の交易活動を中心に、日本列島を含む東アジア海域の交流圏としての成長を把握している。 | |
| 期 | 結びつく世界と日本 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の一体化の第一歩 ・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパの主権国家体制 ・アジアの繁栄 ・世界経済体制の形成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンスや宗教改革がどのような背景のもとに起こり、どのような性格を持っていたか理解し、説明できる。 ・ヨーロッパの対外進出の理由を考察し、16世紀の世界にどのような変化を与えたか諸資料を活用して追究できる。 ・イスラム諸帝国の成立と発展、衰退のおおまかな歴史をヨーロッパとの関係に注目しながら理解している。 ・明朝の衰退ともなう東アジア世界の変貌、さらに最後の中華帝国としての清朝の中国支配を理解している。 ・ヨーロッパのアジアやアフリカ、アメリカ大陸への進出によるそれらの地域の植民地の様子と世界経済への影響を考察を深め、理解している。 | |
| | 近代ヨーロッパ・アメリカと世界の変動 | <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命と工業化社会の成立 ・アメリカ独立戦争・フランス革命とナポレオン戦争 ・ウィーン体制とその崩壊 ・ヨーロッパ国民国家の発展 ・アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動 ・東アジアの変容と日本の近代化 | <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命とは何か、またその成立条件について考察し、説明できる。 ・産業革命によって世界がどのように変化したかを諸資料を活用して理解し、その歴史的意義を考察できる。 ・アメリカの独立とフランス革命の流れとそれらを推進する基本的な考え方、そこに現れる様々な階層の人々の立場を理解し、この革命の歴史的意義を判断し説明できる。 ・各国の自由主義・国民主義運動の高揚がウィーン体制を崩壊させ、近代国民国家を形成していく過程を理解している。 ・資本主義の最高段階として列強が帝国主義に向かう背景を考察し、その結果としてのアジア・アフリカの植民地化を理解している。 ・列強国内の社会主義運動の高揚や植民地における民族運動の背景を理解している。 ・列強の帝国主義政策によってアジア・アフリカ・ラテンアメリカの諸地域がどのように変貌したかについて多面的に理解している。 ・ヨーロッパ列強の東アジア進出の過程を理解し、その中で日本が近隣諸国への進出政策をとった背景を多面的に理解し、説明できる。 | |
| 後 | 地球社会と日本 | <ul style="list-style-type: none"> ・急変する社会と帝国主義 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・戦間期のヨーロッパとアメリカ ・民族運動の高まり ・第二次世界大戦 ・アジア太平洋戦争 | <ul style="list-style-type: none"> ・輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化、政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などから、20世紀という時代の特徴を人類的視野から把握できる。 ・第一次世界大戦とロシア革命の原因や性格について理解し、その後の世界に与えた影響を多角的に考察することができる。 ・戦間期において、いったん図られた国際協調の特徴を理解し、それが世界恐慌とファシズムの台頭により崩れ去ったことに気づいている。 ・世界平和の維持のためには何が必要か、自分の考えを持っている。 ・第一次世界大戦中・戦後の国際状況が植民地・従属国に与えた影響を多面的に考察し、各地域の民族運動の特徴を理解している。 ・第二次世界大戦に至った経過を理解し、その惨禍を諸資料を活用して把握し、その後の世界に与えた影響を多角的に判断できる。 | |
| | 地球社会と日本 | <ul style="list-style-type: none"> ・冷たい戦争 ・アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 ・多極化の進展と冷戦体制の崩壊 ・現代の世界 ・持続可能な世界を目指して | <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察できる。 ・冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因や歴史的背景を多面的に追究し、国際社会の変化や国民国家の課題などについて考えることができる。 ・1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解し、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認めあいながら共存する方向などについて考察できる。 ・原子力利用、情報科学など現代の科学技術の人類への寄与と課題を追究し、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考え、持続可能な世界を形成するために国際的な交流と協調の必要性に気づくことができる。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| なし | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|-------------------|-------------------|--|--|---------|
| 25 | 公 民 | 現 代 社 会 | 2 / 4 (2・3年次継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 3 | な し | な し | 最新現代社会 新訂版 (実教出版) 高校生のためのふるさと教育 (富山県教育委員会) | |
| 学 習 の 目 標 | | 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解し、それらに関する諸課題について主体的に考え、公正な判断力、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。 | | |
| 単 元 ・ 項 目 | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | | |
| 前 期 | 現代の民主政治と 日本国憲法 | 日本国憲法の基本的性格 | <ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の成立過程を理解し、日本国憲法のもつ意味や、三大原理、大日本帝国憲法と日本国憲法の違いに気づいている。 日本国憲法の全体像にふれながら、平和や人権などの問題について自分の考えを持っている。 自衛隊・憲法改正問題など昨今の憲法に関するさまざまな論点について関心を深めている。 基本的人権、新しい人権について、理解を深め、その本質を把握している。 人権に関する判例を活用しながら、権利と義務、「公共の福祉」などについて理解を深めている。 | |
| | | 日本の政治機構と政治参加 | <ul style="list-style-type: none"> 国会、内閣、裁判所などの政治機構とそれぞれの役割について、意欲的に理解し、主権者としての政治に対する関心を深めている。 国会、内閣、裁判所に関する題材をさまざまなメディアを通して収集できる。 司法制度について正確に把握し、司法制度改革についても考察できる。 内閣の権限や違憲法令審査権について、正しく把握できる。 地方自治の本旨を理解し、地方自治のあり方と国と地方の関係を地方分権をもとに考察できる。 議会政治における政党の役割について把握できる。 | |
| | 現代の経済社会と 国民生活 | 現代の経済社会 | <ul style="list-style-type: none"> マス・メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて認識する。 資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較し理解できる。 家計・企業・政府が互いにどのように関わりあひながら国民経済を構成しているのかを理解できる。 株式会社など現代の企業について、所有と経営の両面から理解できる。 財政の基本的なしくみや役割、公債の抱える問題を理解し、財政政策及び金融政策の重要性に気づく。 | |
| 後 期 | | 日本経済の特質と国民生活 | <ul style="list-style-type: none"> 経済成長率の推移、物価変動などの資料、経済政策に関する資料などを利用して、日本経済の動向を調査できる。 経済成長とともに人々の生活が豊かになる一方で、公害などの社会問題が発生したことに気づく。 新聞記事などの資料を利用して調査し日本が直面する経済問題について考察する。 労働基本権と労働三法を正しく把握した上で、雇用情勢の変化について理解第二次世界大戦後からの国際社会の展開を把握し、冷戦終結後の国際社会の動向について理解できる。 日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について判断できる。 | |
| | | 国際社会と人類の課題 | <ul style="list-style-type: none"> 国際政治と国内政治の違いを理解し、国家間に格差が生じていることを把握できる。 国際連合の役割と問題について理解できる。 冷戦時代と冷戦終結後の日本の安全保障体制について考察できる。 人種・民族問題とNGOが国際政治に与える影響について、関心を持つ。 民族紛争などを例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察できる。 国際平和に関する問題について、日本が貢献できることについてさまざまな視点で考察できる。 | |
| | | 国際政治の動向 | <ul style="list-style-type: none"> 国際経済の基本的な概念や理論、国際収支の基本的な構成を理解できる。 なぜ、為替相場は変動するのかを考察し、円高・円安が、自分の生活にどのように影響するかについて関心をもつ。 円とドルの為替相場について、日本企業の海外での現地生産を例に考察する GATTの歩みとWTOの役割について理解する。 国際協調のために、どのような国際機関が存在するか、把握する。 貿易の自由化が経済に大きな影響を与え、それによって、地域的経済統合の動きなどがみられることを理解する。 世界には経済格差の問題があることを把握し、日本の国際貢献のあり方について考察できる。 経済のグローバル化の進行による経済の現状と課題を考察することができる。 | |
| | 現代社会の諸課題 | 国際経済の動向と国際協力 | <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の成果の上に立って課題を追究し、生活に関連する面を中心に課題を見出し、資料を収集することにより、自分なりの考えを持つことができる。 身の回りの具体的な事例をもとに、地球環境問題などの世界的な諸問題について考察し国際社会における日本の役割について考察できる。 | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| なし | | | | |

| N | O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 |
|------------|----------------------------------|---|--|-----|---------|
| 26 | | 理科 | 化学基礎 | 2 | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | | |
| 3 | なし | なし | 高等学校 改訂 新化学基礎 (第一学習社) 基本 ステップノート 化学基礎 (浜島書店) | | |
| 学習の目標 | | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活と関係の深い化学的現象をとおして、自然科学に対する理解を深め、科学的思考を身に付ける。 教科で身につけた知識から、自然現象を合理的に分析し、農業科目や日常生活に活用する態度と探究能力を身に付ける。 | | | |
| 単元・項目 | | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 前期 | 第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 | <ul style="list-style-type: none"> 物質とその構成要素 化合物・単体と構成元素 成分元素の確認 原子のなりたち 同位体とその利用 原子の電子配置 元素の周期律と周期表 | <ul style="list-style-type: none"> 混合物、純物質の性質を理解できる。 混合物中の純物質を分離する方法を理解し、物質を分類できる。 元素の概念、種類、元素記号について理解できる。 元素成分の特有の反応を理解し、物質を分類できる。 物質はすべて原子から成り立つことを理解できる。 原子には中性子の数が異なる同位体があることを理解できる。 原子核の構造について理解できる。 周期表と周期律について理解できる。 原子がイオンになる仕組みとイオンの性質について理解できる。 イオンからなる物質の性質を理解できる。 分子における共有結合の成り立ちについて理解できる。 分子の構造を理解できる。 分子からなる物質の性質を理解できる。 | | |
| | 第2節 物質と化学結合 | <ul style="list-style-type: none"> イオン イオンから出来る物質 共有結合 分子の構造と極性 分子から出来る物質 共有結合 金属結合 金属の利用 | <ul style="list-style-type: none"> 金属結合と金属の性質を理解できる。 原子量を求めることができる。 分子量・式量を求めることができる。 物質量を理解し、化学反応の整数性を理解できる。 水溶液の濃度を計算できる。 | | |
| 後期 | 第2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 | <ul style="list-style-type: none"> 原子量 分子量・式量 物質量 溶解と濃度 溶解度 化学変化と化学反応式 化学反応式と量的関係 熱化学方程式 ヘスの法則 | <ul style="list-style-type: none"> 化学反応式を組み立て、反応物質や生成物質の量的関係を求めることができる。 物質量を理解し、化学反応の整数性を理解できる。 化学変化や状態変化は熱などのエネルギーの出入りがあることを理解できる。 | | |
| | 第2節 酸と塩基とその反応 | <ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基 酸と塩基の強弱と水素イオン濃度 中和反応と塩の生成 量的関係と中和滴定 | <ul style="list-style-type: none"> 酸性、塩基性を理解し、それぞれの溶液の性質を理解できる。 酸と塩基の定義について理解できる。 pH計算ができる。 身近な物質のpHを調べることができる。 中和反応を理解し、生成する塩について説明できる。 中和滴定の実験を通して中和反応の量的関係を説明できる。 | | |
| 後期 | 第3節 酸化還元反応 | <ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化数と酸化還元反応 酸化剤・還元剤と金属のイオン化傾向 酸化還元反応の利用 | <ul style="list-style-type: none"> 酸化、還元反応を理解し、化学反応やそれに伴う物質の量的関係を理解、説明できる。 電池や電気分解の反応をイオン、酸化の概念を通して理解、説明できる。 | | |
| | 無機物質 有機化合物 | <ul style="list-style-type: none"> 非金属元素の単体と化合物 金属元素の単体と利用 有機化合物 高分子化合物 | <ul style="list-style-type: none"> 無機物質の単体や化合物の性質や反応を理解、説明できる。 高分子化合物の性質を理解、説明できる。 | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| なし | | | | | |

| N | O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|------------|------------------------|---|---|------------------------|---------|
| 27 | | 保健体育 | 体育 | 2 / 7 (1～3年次まで継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | | |
| 3 | なし | なし | 現代高等保健体育改訂版 (大修館) | | |
| 学 習 の 目 標 | | <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の合理的実践をとおして、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようになる。 ・運動の必要性を理解し、生涯を通して自己の能力に応じて継続的に運動ができる資質や能力を身に付ける。 | | | |
| 単 元 ・ 項 目 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | | |
| 前 期 | 体づくり運動 | 体ほぐしの運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の体への関心と体づくりへの取り組みができる。 ・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための取り組みができる。 ・実践を通して陸上競技の楽しさにふれている。 ・自己の技術的・体力的課題を知り、その解決を図りながら記録の向上を目指している。 ・サッカーの特性と戦術を理解し、ゲームの攻防を楽しむことができる。空いたスペースを活用した攻防ができる。 ・社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。 | | |
| | スポーツテスト | 体力を高める運動 各種測定 | | | |
| | 陸上競技 ・短距離走、リレー | 50m、100m 走 バトンパス、ハードル走 | | | |
| | 球技 ・サッカー | 基本技術 (パス、ドリブル、シュート) 戦術練習、簡易ゲーム | | | |
| | 体育理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの見方、考え方 ・ライフスタイルに応じたスポーツ | | | |
| 後 期 | 球技 ・ソフトボール | 基本技術 (打つ、捕える、投げる、走る) | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技術を身に付けている。 ・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限に活用してゲームができる。 ・基本的な技術を身に付けている。 ・チーム全員で協力し、楽しくパスゲームができる。 ・基本的な技術を身につけ、相手側のコートの中をめぐり攻めようとすることができる。 ・バドミントン、卓球の特徴を理解し、正しくシャトル・ボールを打つことができる。 ・簡易ゲームでラリーを楽しむことができる。 ・基本的な技術を身に付けている。 ・バスケットボールの特性と戦術を理解し、ゲームの攻防を楽しむことができる。 ・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。 | | |
| | ・バレーボール (ビーチボール) | 基本技術 (パス、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーション) ゲーム | | | |
| | 球技 ・テニス | フレッシュテニス 基本技術 (フォア、バック、ロブ) 簡易ゲーム | | | |
| | 選択体育 ・バドミントン ・卓球 | 基本技術 (ドライブ、ハイクリア、サーブ、ヘアピン、スマッシュ) ゲーム 基本技術 (フォア、バック、ドライブ、サーブ) 簡易ゲーム | | | |
| | ・バスケットボール | 基本技術 (ドリブル、レイアップシュート、ジャンプシュート) 簡易ゲーム | | | |
| | 体育理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本のスポーツ振興 ・スポーツと環境 | | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| なし | | | | | |

| N | O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|---|-----------|--|--|-----------------------|---------|
| 28 | | 農 業 | 課 題 研 究 | 2 / 4 (2年次からの継続履修) | 必履修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | | |
| 3 | な し | な し | | | |
| 学 習 の 目 標 | | 農業に関する課題を設定し、その解決を図る学習をとおして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付ける。 | | | |
| 単 元 ・ 項 目 | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | | | |
| 前 期 | 課題設定と研究計画 | <ul style="list-style-type: none"> 課題設定 課題は、①～⑤までの2項目以上にまたがる課題を設定する。 ①調査、研究、実験 ②作品製作 ③産業現場等における実習 ④職業資格の修得 ⑤学校農業クラブ活動 研究計画 | <ul style="list-style-type: none"> 興味・関心・進路希望等に応じて、野菜・草花・造園・作物・食料の5分野から、研究分野を選択することができる。 個人またはグループで、前年の研究をふまえて、農業に関する適切な課題を設定することができる。 | | |
| | 研究の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 研究の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 設定した課題を研究するための計画を、具体的にたてることができる。 実施計画に従い、研究を行う方法を調べることができる。 設定した課題に、意欲的、計画的に取り組むことができる。 毎時間実験結果を適切にまとめ、記録簿に記入することができる。 | | |
| | 研究の中間考察 | <ul style="list-style-type: none"> 中間まとめと考察 | <ul style="list-style-type: none"> 前半の研究結果をまとめ、結果や発生した問題を考察することができる。 問題解決を目指して思考を深め、基本的な知識と技術を活用して判断し、今後の研究計画を合理的にたてることができる。 | | |
| 後 期 | 研究の継続実施 | <ul style="list-style-type: none"> 継続研究 | <ul style="list-style-type: none"> 設定した課題に、創意工夫しながら創造的、実践的に取り組み、適切に処理することができる。 専門的な知識や技術を身に付け、調査、研究、実験方法を理解している。 毎時間実験結果を適切にまとめ、記録簿に記入することができる。 | | |
| | 研究のまとめと発表 | <ul style="list-style-type: none"> 研究のまとめと考察 要旨集原稿の作成 発表 | <ul style="list-style-type: none"> 研究成果をまとめ、総合的に考察することができる。 専門的な知識や技術、理解した成果を応用し問題を解決しようとする自発的、創造的態度が身に付いている。 ワープロや表計算ソフトを用い、研究内容を的確に表現した要旨原稿を作成することができる。 校内課題研究発表会で、プレゼンテーションソフトを使用し、研究成果をわかりやすく発表することができる。 | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 毒物劇物取扱責任者 危険物取扱者（乙種）4類 ※毒物劇物取扱責任者を取得すると2単位、危険物取扱者（乙種）4類を取得すると1単位増加単位として認定される。（課題研究の単位を取得した場合に限る） | | | | | |

| N O | 教科 | 科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 | |
|--------------|---------------------------|--|--|---------|--|
| 29 (1) | 農業 | 総合実習 | 3/9 (1年次からの継続履修) | 必履修 | |
| 開講年次 | 選択群 | 系列 | 使用教科書・教材 | | |
| 3 | なし | 野菜 | 総合実習テキスト | | |
| 学習の目標 | | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの系列（草花、野菜、造園）の知識と技術を身に付ける。 野菜の特性や栽培に適した環境について学習し、良い品質で多くの収量を上げることが出来るようにする。 | | | |
| 単元・項目 | 学習内容 | 到達度目標 | | | |
| 前期 | 春野菜の育苗 | <ul style="list-style-type: none"> 育苗のねらい 育苗方法とその特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ハウス内の除草をすることができる。 鉢上げ、鉢替えを確実にし、その必要性を把握している。 ハードニング（硬化）について理解している。 | | |
| | 果菜類の栽培 | <ul style="list-style-type: none"> 生育の経過 生育の特性 生育と環境 | <ul style="list-style-type: none"> 半促成トマトやキュウリの生育経過を学習し、生育特性を理解している。 えき芽処理について学び、その必要性について把握している。 夏秋メロンの生育特性を理解し、たねまきや育苗管理ができる。 雌花、雄花を観察し、花のつきかたや構造の違いを理解している。 | | |
| | 葉菜類の栽培 | <ul style="list-style-type: none"> 生育の特性 植付後の管理 | <ul style="list-style-type: none"> 生育に適した温度条件、土と水分の条件を学習し、栽培に応用できる。 薬剤散布を適時に正確にできる。 | | |
| | 秋野菜の育苗管理 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> 作型と品種の選び方 本畑管理 病虫害防除 | <ul style="list-style-type: none"> たねまき前の本畑管理や栽培管理が適時できる。 植え付けに適する苗の大きさや植付距離を理解することができる。 病虫害の防除の仕方を理解することができる。 | | |
| 後期 | 秋野菜の栽培管理 | <ul style="list-style-type: none"> 本畑管理 施肥設計 収穫出荷 | <ul style="list-style-type: none"> 植え付け後の管理として、中耕、追肥、除草、病虫害防除などがあるが、それぞれの目的と方法を理解し、実施できる。 肥料の特性、土の特性を理解し、元肥・追肥などの施肥設計ができ、栽培できる。 薬剤散布ができる。 メロンを収穫し、収穫の喜びを味わうことができる。 農産物即売会を体験し、販売や出荷方法を理解できる。 よい苗の条件を学習し、苗の良否が生育や収量を大きく左右することを理解している。 | | |
| | 果菜類の育苗 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> 育苗の目的 鉢の種類と被覆資材 つぎ木 | <ul style="list-style-type: none"> 育苗に利用する被覆資材の種類と特徴を理解している。 つぎ木の目的を理解している。 つぎ木の方法に応じて適切な台木の選定ができ、わりつぎ、さしつぎ、よびつぎの特徴を理解し、実際につぎ木ができる。 | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | |
| ・日本農業技術検定 3級 | | | | | |

| N O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 |
|---|---|--|--|---------|
| 29 (2) | 農 業 | 総 合 実 習 | 3 / 9 (1年次からの継続履修) | 必修 |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | |
| 3 | な し | 草 花 | 総合実習テキスト | |
| 学 習 の 目 標 | | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの系列（草花、野菜、造園）の知識と技術を身に付ける。 草花の特性や栽培に適した環境について学習し、経営と管理についての実践的な能力と態度を身に付ける。 | | |
| 単 元 ・ 項 目 | | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | |
| 前 期 | 花壇用草花の鉢替えと出荷 | <ul style="list-style-type: none"> 鉢替えの方法と商品の出荷方法 | <ul style="list-style-type: none"> 鉢替え適期を理解し、生産物出荷方法の知識を身に付けることができる。また、付加価値をもたせた出荷方法を創意工夫することができる。 | |
| | 開花調節 | <ul style="list-style-type: none"> ホルモン剤の利用 | <ul style="list-style-type: none"> 開花調節により商品価値を高める基本的技術について理解し、実践することができる。 | |
| | シクラメンの栽培 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> 鉢上げ 鉢替え 栽培管理 | <ul style="list-style-type: none"> 鉢替え方法の知識（病気予防）を理解し、植え付け位置、適切な用土量、ウォータースペースを正確に守った鉢替えができる。 薬剤散布をすることができる。 適切な栽培管理ができる。 | |
| | ハボタンの育苗管理 | <ul style="list-style-type: none"> 播種 鉢上げ 鉢替え 追肥 | <ul style="list-style-type: none"> 播種箱の準備や播種、覆土、腰水かん水が適時できる。 3号ポットに適する苗を選抜し、植え付けることができる。 病害虫の防除の仕方を理解することができる。 | |
| 後 期 | 秋～春の草花の栽培管理 | <ul style="list-style-type: none"> プリムラの鉢上げと鉢替え シネラリアの鉢上げと鉢替え シクラメンの手入れ | <ul style="list-style-type: none"> 鉢換えの目的を理解し、正確かつ迅速に実践することができる。 適切な栽培管理ができる。 | |
| | 草花の販売 | | <ul style="list-style-type: none"> 農産物即売会を体験し、販売や出荷方法を理解することができる。 | |
| | 花壇用草花の育苗 花壇用草花の育苗 ○特別実習 当番実習 | <ul style="list-style-type: none"> 鉢上げ コリウス、エキザカムの仮植 追肥 | <ul style="list-style-type: none"> 花壇に利用する草花の種類と特徴を理解できる。 よい苗の条件を学習し、苗の良否が生育や収量を大きく左右することを理解できる。 ピンセットを使い、播種箱からセルトレイに、丁寧かつ正確に移植することができる。 肥料の特性、土の特性を理解でき、元肥・追肥などの施肥設計ができる。 | |
| | ○特別実習 当番実習 | | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 日本農業技術検定 3級 | | | | |

| N | O | 教 科 | 科 目 名 | 単 位 数 | 必修・選択の別 | |
|---|---------------------|--|--|--|---------|--|
| 29 (3) | | 農 業 | 総 合 実 習 | 3 / 9 (3年次までの継続履修) | 必履修 | |
| 開講年次 | 選択群 | 系 列 | 使 用 教 科 書 ・ 教 材 | | | |
| 3 | な し | 造 園 | 総合実習テキスト | | | |
| 目 標 | | | | | | |
| 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次の通りに育成することを目指す | | | | | | |
| 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力 | | 学びに向かう力、人間性 | | |
| 農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | | 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | | 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 | | |
| 単 元 ・ 項 目 | 学 習 内 容 | 到 達 度 目 標 | | | | |
| 前 期 | 実を付ける植物の栽培 垣根の作成 | ・実を付ける植物の播種 ・四つ目垣の作成 | ・実生繁殖方法を理解し、ただしい播種ができる。 ・四つ目垣の基本形と応用形の作成ができる。 | | | |
| | ツバキの栽培 | ・さし木 | ・ツバキのさし木繁殖方法、手順を理解し、正しくさし木ができる。 | | | |
| | 薬剤散布 | ・薬剤散布の目的と方法 | ・病虫害の防除の仕方を理解し、目的に応じて薬剤散布ができる。 | | | |
| 後 期 | 鉢物・盆栽類の栽培管理 | ・追肥と除草 ・鉢上げの方法 ・鉢替えの方法 | ・鉢物・盆栽の追肥と除草を正確に行うことができる。 ・鉢上げ方法を知り、適切な位置に植え込むことができる。 ・鉢替え方法の知識（病気予防）を理解し、植え付け位置、適切な用土量、ウォータースペースを正確に守った鉢替えができる。 | | | |
| | ○特別実習 当番実習 | | | | | |
| 後 期 | 環境整備 庭木の剪定 | | ・雑草が病虫害の温床になることを理解することができる。 ・庭木の剪定の目的と方法を理解し、実践することができる。 ・三脚など使用道具の適切な使い方を理解し、使いこなせる。 | | | |
| | 庭木の防寒 | ・なわの結び方 ・雪囲い ・雪吊り | ・基本的ななわの結び方が理解でき、正しく結ぶことができる。 ・庭木の正しい雪囲いができる。 ・マツなどの雪吊りができる。 | | | |
| | 庭木の根回し | ・根回し準備 ・溝掘り ・埋め戻し | ・庭木の正しい根回しができる。 | | | |
| | ○特別実習 当番実習 | | | | | |
| 取得可能な検定や資格 | | | | | | |
| ・技能検定 造園2級・3級 | | | | | | |